

# KELES Newsletter

## 関西英語教育学会報 2018年度 第4号

事務局：〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

大阪教育大学 教育学部 教員養成課程 橋本健一研究室内

E-mail: kelesoffice@gmail.com 学会ウェブサイト: <http://www.keles.jp/>

2019年3月26日発行



### 巻頭言

## 2018年度を振り返って—初心忘るべからず—

関西英語教育学会 (KELES) 副会長 泉 恵美子 (京都教育大学)

今年度もあと少しで終わろうとしています。振り返れば、大阪府北部地震、台風、7月豪雨、記録的猛暑、北海道胆振東部地震など次々と災害に見舞われ多くの被害がございました。なすすべもない自然の脅威を感じ、平穏な日々の有難さや命の大切さを痛感いたしました。

関西英語教育学会にとっても大きな年でした。8月に全国英語教育学会第44回京都研究大会を開催し、全国から多くの参会者を迎え、皆様のお力で成功裏に終えることができました。その他、研究大会と2回のセミナー、卒論・修論研究発表セミナーでも多くの学びがあり、これまで、そして今後の英語教育の在り方を討議する機会ともなりました。

さて、英語教育改革も新学習指導要領が出そろい方向性が定まりました。今年度から小・中学校で移行措置期間が始まり、実践が行われていますが、様々な課題も浮かび上がっております。特に小学校英語教科化への対応とそれに伴う教員養成や教員研修は喫緊の課題です。英語教育を通して世界平和や人類の幸福に貢献できるグローバル市民を育てること、心豊かな人格の形成、異文化や異言語への興味の喚起など、各々の教育観や言語観は異なると存じますが、今年度の取り組みを振り返りつつ、今何をなす

べきかを自ら問い直す時間を暫し持ちたいものです。

今年のKELESセミナーの中で、「初心忘るべからず」は英語では“sense of wonder”といえると教えていただきました。室町時代の世阿弥の書「花鏡」の結びには、「しかれば当流に万能一徳の一句あり。初心忘るべからず。この句、三ヶ条の口伝あり。是非とも初心忘るべからず。時々の初心忘るべからず。老後の初心忘るべからず。この三、よくよく口伝すべし」とあります。「初心」とは、始めた頃の謙虚で真

#### お詫びと訂正

1月末にお送りいたしましたKELES Newsletter 2018年度第3号の高橋勝忠先生のご講演報告の記載内容（ご著書のタイトル）に誤りがございました。高橋先生他、関係の皆様にご迷惑をお詫び申し上げます。ここに訂正いたします。

#### 【訂正箇所】

p.1：高橋先生ご講演報告の第一段落6～7行目

#### 【誤】

「英語学セミナー：思考鍛錬のための言語学」

#### 【正】

「英語学セミナー：思考鍛錬のための言葉学」

剣な気持ちや志ではなく芸の未熟さの意味だそう  
うです。人は未熟さを抱え、年をとっても変わ  
らない。だからこそ直面する壁や試練を乗り越  
えた経験が芸の向上に資する。更に、初志を思  
い出すことで、当時の気持ちや経験を生かすこ  
とができるとのこと。芸能と教育は異なります  
が、プロの教師として未熟さを感じながら向上  
心を持って学び続け、“live with a sense of

wonder”を体現できればと思います。

KELESへの日頃のご支援・ご協力に感謝申し  
上げますと共に、新たな年度が皆様にとりまし  
て、またKELESにとってもより良き発展と成長  
の年になりますよう、共に精進できますことを  
願っております。（ところで、新元号はいかに…。）

## 報告 関西英語教育学会 第22回 卒論・修論研究発表セミナー

開催日：2019年2月11日（月・祝）

会場：関西国際大学 尼崎キャンパス

第22回卒論・修論研究発表セミナーが、大学  
英語教育学会関西支部と外国語教育メディア学  
会関西支部の共催にて、2019年2月11日（月・  
祝）に関西国際大学尼崎キャンパスにおいて開  
催されました。

第22回の本年は、早朝から小雪がちらつくあ  
いにくの空模様で、ご来場の皆様への影響を  
心配しておりましたが、午前のセッションから  
多くの方にご来場いただきました。当日行わ  
れた研究発表は合計19件（口頭発表16件・ポ  
スター・デモ発表3件）で、口頭発表会場では  
各分野の第一線でご活躍のコメンテーターの  
先生方からの温かくも鋭いコメントもあり、  
またオーディエンスとの活発な議論もありと、  
たいへん盛況でした。ポスター・デモ発表の  
形式も定着したようで、多くの方が入れ替わ  
り立ち替わり、発表者に質問を投げかけてい  
ました。午後の発表の後のアフタヌーン・ティ  
ーにも多くの方にご参加いただいて、発表  
者、参会者、コメンテーターの皆さまが軽食  
と飲み物を片手に、和やかに交流する時間  
を持つことができました。

またスペシャル・トークとして、神戸市外国  
語大学の玉井健先生をお招きし「英語教育に  
おける授業実践をどうとらえるか：人間科学  
的視点のもたらす方法論的ヒント」というタイ  
トルで講演をしていただきました。なお当日の

ご講演内容につきましては、玉井先生にご協力  
いただきまして、KELESジャーナル第4号に誌  
上講演という形で掲載されますので、ぜひご一  
読ください。

今年もお忙しい中多数のコメンテーターの先  
生方にもご協力いただき、約120名の参加者が  
集まる盛会となりました。ご来場いただいた  
皆様に御礼申し上げます。また今年度も会場校  
として完璧なご準備・運営をしてくださいまし  
た関西国際大学の有本先生、河内山先生、そし  
て学生スタッフの皆様にも厚く御礼申し上げ  
ます。来年度も多くの学生の皆さん、またご指  
導下さる先生方が関わって下さることを期待し  
ております。

なお、卒業論文・修士論文の研究発表の発表  
者とタイトルの一覧を含むセミナーの内容は、  
関西英語教育学会ウェブサイトにてご確認ください  
（[http://www.keles.jp/news/keles22\\_thesis/](http://www.keles.jp/news/keles22_thesis/)）。

以下、発表者の方からの体験記です。

### <発表者体験記>

#### 【卒論・口頭発表】

吉田 千紘 さん（神戸市外国語大学）

この卒修論セミナーで自分の論文を発表しな  
がら、私は自分の高校時代の頃を思い出してい  
ました。私は地元の明石市にある高校の英語  
コースに在籍しており、独自の授業としてパワ  
ーポイントを使用し、プレゼンテーションを

するというものがありました。当時高校3年生であった私が、Final Presentationのテーマとして選んだのが、今回の論文でも扱っているHarry Potterシリーズです。他大学のオーディエンスの方の前でお話しながらも、当時の母校のLL教室での光景が、昨日のこのように蘇っていました。卒業論文内では、Harry Potterシリーズがなぜ英語学習に適切であるか、先行研究に基づいて分析していますが、正直なところ私がこの作品を例として選んだ1番の理由は、私がこのHarry Potterシリーズが大好きであるからです。卒業論文の執筆作業、このセミナーへの準備期間や当日の発表で、今後教育現場に携わる立場として、役に立つことをたくさん学ぶことができましたが、それに加えて「自分の“好き”という気持ちの原動力」や「何かを継続することの大切さ」を肌で実感することができたと思います。このような経験を今後は学校現場で生徒に還元できたら、と思います。このような機会を提供してくださったKELES卒修論セミナーに関わるすべての方、そしてこのような動機で論文のテーマを決めたにも関わらず、根気強く、丁寧に指導してくださった村田純一教授に感謝の気持ちを伝えたいです。本当にありがとうございました。

#### 【修論・ポスター・デモ発表】

藤井 佐代子 さん（兵庫教育大学大学院）

卒論・修論研究発表セミナーでは、発表を聴いてくださる方々と距離が近いと言われるポスター・デモ発表の申し込みを選択しました。

初めてのポスター作成や発表に不安でいっぱいでしたが、事務局の方から、ポスター枠のひな型を示していただいたことは大きな助けとなり、スムーズに作成することができました。また、限られたスペースのポスターに載せる情報を精選したり、発表では説明の機会が3回あったり、聞いてくださった方々と比較的自由にやりとりができたりするといった中で、論文の内容・意義を再認識し整理でき、考えがより明確になっていった点は、ポスター・デモ

発表の良さだと感じました。聞いてくださった方々との対話は、発表内容から膨らみ豊かなものとなり、次の課題が少し見え始めました。真摯に真理を追究しておられる研究者の方々の研究姿勢に感化される、このような貴重な交流の機会を提供していただきましたことに、感謝申し上げます。何よりも、温かく発表を迎えてくださる雰囲気は心に残りました。

今回のポスター・デモ発表では、様々な方々のご支援を得て、また、皆さまとの交流を通して、ともすれば苦しみの方が多くなってしまう研究イメージに、追究するおもしろさがより一層明確に付加されたことは、大きな収穫でした。誠に有難うございました。

#### 【修論・口頭発表】

稲田 優子 さん（関西大学大学院）

私は、L2動機づけの分野で注目を集めている理論の1つであるDirected Motivational Current (DMC) に関して発表を行った。本研究で、日本人学習者がDMCの特性を持っているか、どのようにDMCが学習者の目標の到達に貢献するかについて明らかにした。中田賀之先生（同志社大学）、田中博晃先生（近畿大学）からのコメントで質的研究の重要性、その妥当性を担保するために調査のプロセスの開示についての必要性を再認識した。また、会場からの質問で、DMCの将来性について気づきを得ることができた。

関西大学では、学内発表を2回する機会があり、その後KELES主催の卒論・修論研究発表セミナー、修士論文の口頭試問となる。KELESでの発表を通じて、多角的な視点から本研究の知見を深めることができた。口頭試問でもKELESと同様の議題があがり、本研究の有意義な議論へと発展した。

研究発表の意義や研究者との交流の楽しさを実感するとともに、今後も様々な場面でDMCの研究が議論されることが必要であると考え。KELES事務局の橋本健一先生、運営者・参加者の皆様に心から感謝を申し上げる。

## 学会事務局からのお知らせ

### ◆学会費納入のお願い

新年度を迎えるにあたり、2019年度学会費納入をお願いいたします。詳しくは、同封のお知らせをご覧ください。

2018年度分の学会費が未納の方は納入をお願いいたします。2018年度分を2月末までにお支払いいただいていない場合には、8月に開催の全国英語教育学会第45回弘前研究大会での発表ができませんので、ご了承くださいませ。

### ◆2019年度関西英語教育学会（第24回）研究大会のお知らせ

標記研究大会が、以下の通り開催されます。多数のご発表・ご参加、お待ちしております。

日時：2019年6月15日（土）・16日（日）

会場：大阪教育大学・天王寺キャンパス

研究発表、ポスター・デモ発表、公募ワークショップ、公募フォーラムを募集中です。発表申込締切は4月21日（日）です。詳細は同封の発表募集チラシ、ウェブサイトをご覧ください。

### ◆全国英語教育学会第45回弘前研究大会

標記大会が以下の通り開催されます。多くの皆さまにご発表・ご参加いただければと思います。全国の会員ではないという方もぜひご検討くださいませ。

詳細は大会ウェブサイトをご覧ください。

日時：2019年8月17日（土）・18日（日）

会場：弘前大学・文京町キャンパス

大会ウェブサイト：

<http://jaselehirosaki.sakura.ne.jp/>

[JASELEHiroSaki2019/index.html](http://JASELEHiroSaki2019/index.html)

### ◆各種お問い合わせフォームについて

<http://www.keles.jp/>

お問い合わせには、学会ウェブサイトの各種お問い合わせフォームをご利用下さい。

▶入会をご希望の方

▶研究大会

▶各種セミナー

セミナーへの参加登録、発表申込み、企業展示の申込みなど

▶学会誌『英語教育研究』

学会誌への論文投稿など

▶お問い合わせ

学会費、学会誌、研究大会、各種セミナー、入・退会、会員情報の変更、その他学会全般に関するお問い合わせ

### ◆編集後記

2018年度も終わろうとしています。関西英語教育学会としては、8月の全国英語教育学会第44回京都研究大会のホストという大きなミッションがありました。大会実行委員長の横川先生、副実行委員長の里井先生、泉先生、大会事務局長の大和先生をはじめとした実行委員会の先生方のご尽力、そして直前に台風が接近したかと思えば当日はやっぱり猛暑...というなかご発表・ご参加いただいた会員の皆様のおかげで大成功に終わったと言えると思います。良い流れを引き継いで、2019年度も皆様と共に英語教育を色々な角度から考えていきたいと思っています。年次大会は久々に土・日開催で、現在鋭意準備中です。皆様ぜひふるってご参加くださいませ。（KH）